

# ぽぽデイだより NO.129 令和5年11月号

社会福祉法人 ほっとスマイル  
ぽぽデイ名塩駅前 669-1133 西宮市東山台 1-1(1階) TEL0797-62-1165

## 施設長より

先日、山形県の子ども園に見学に行っておきました。リスクマネジメントの研修でお世話になっている先生から、「ぜひ見に行ってください」と、勧められたからです。

この園は、部屋の中に手作りのロフト、庭に大きな木組みの塔や高い築山があるのが特徴です。その日は、園庭で焼き芋を焼いたり羽釜でご飯を炊いたり、いつもとは少し違う日でした。そこで発見したのは、自由気ままに、思い思いの場所で焼き芋や羽釜ご飯のおにぎりを頬張る姿。塔の台に腰掛けて並んで食べる、その足が思わず踊ってしまうのです。

子ども見守り人数が足りないときは、ブランコはできないというサインに赤い布が園庭の柵にかけられています。職員が揃うと、白い布になり、子どもたちが口々に白旗になったよ、と周りに教え合います。おにぎりを見向きもせず、ストライダー（ペダルのない二輪車）で園庭をぐるぐると回り続けていた子は、最後の一人になってやっと、駐輪場にストライダーの車輪を納めて、お昼ご飯のために部屋に入って行きました。「ダメ」や「～しますよ」など、禁止や参加の強要がなく、子どもの姿を観察し、危険な場所にはさりげなく立ち、期待する行動は子ども自ら気づく仕組みが考えられています。特別なニーズのある子どもさんも一緒に遊んでいます。制限のない環境下では子どもにも職員にもストレスはありません。

改めて、環境と子どもの育ち、特別なニーズのある子のための環境の在り方と職員や園のリスクマネジメントについて深く考えさせられる一日でした。子どもたちをよく知ること、そして支援を考え試行錯誤すること。リスクマネジメントを踏まえた、職員の力量も試されます。

折しも、職員の井野口が児発管（児童発達支援管理責任者）資格の更新のための研修に行ってきました。その研修では、放課後デイでも「ドキドキわくわく」のある支援が大切と言われていたとのこと。そう。山形の園でも「ドキドキわくわく」が溢れて子どもの足が踊っていました。井野口はけがや事故に対する未然の気づきや子どもの心理解が抜群の職員ですが、幼児から高校生まで多様な個性の子が通うぽぽデイで、けがや事故のリスクを回避しながらどのように「ドキドキわくわく」ができるか……。もっともっと知恵を絞らなければ、と思った事でした。

## 児童発達支援 いちご組

どんぐり、黄色や赤色の葉っぱを探しに、お散歩に出かけました。中央公園の入り口にある園内の看板→どんぐりが落ちている木々の道→ぽぽデイの玄関を写真にし、お散歩コースを朝の会で、みんな確認して出発です。太陽の光を感じ、体にぶつかる気持ちの良い風を感じ、一歩いっぽ進んでいく足元の音を感じます。たくさんのお話や気持ちを発信されながら、楽しい時間になりました。楽しいばかりではなく「ここは車が通る道だからね」「この道は細くなってるよ」と、大事な場面では、じっくりとお話を聞いてくれます。どんぐりや葉っぱを、手にして触れて、形や大きさ、発見する面

白さ、集める楽しさをみんなで感じたお散歩になりました。

季節が進み、寒さを感じる日もありますが、戸外でのお散歩、公園での遊具を使った粗大あそびも取り入れていきたいと思います。制作あそびなど指先、手の平を使ったあそびも、引き続き楽しんでいきたいと思います。

## 放課後等デイサービス

職員や友だちと一緒に机上でパズルやカードゲーム、レゴや人形を演じてごっこあそび、数名集まってボーリングやバランスあそびなどの集団あそび。曜日によってメンバー構成も違い、あそびや過ごし方も違いがあります。同じあそびでも友だちや職員が変わることで、ルールや展開の方法も違い、新たな発見や面白さを見つけ、一緒に楽しんでいます。お誘いして、まだ浅かったり、経験がなかったりして、そのあそびに気持ちが向かなかったりすることもあります。職員とペアになって一緒に楽しむことで、経験となり、『次もやってみようかな』という姿もみられます。

1人ひとりが安心して、一人でじっくりとあそび込む場所・時間、職員とのあそびを楽しむ時間、友だちとあそびを広げ、楽しむ時間をお子様と職員でバランスを取りながら、充実した時間になれるように過ごしていきたいと思います。

## スタッフの一言

たくさんの学校行事を控え、楽しいこと、しんどかったことをお話してくれます。それぞれの環境や状況を感じながらぽぽへ来てくれる子ども達がお互いを感じながら同じ時間を楽しんでくれることを願っています。

金岩

昼夜の寒暖差も徐々に大きくなり、服装の調整が難しい季節ですね。冷え性の私にとって、これから迎える名塩の冬本番の寒さは苦手です。今から気温の変化に留意し、こどもたちと共に元気いっぱい過ごせるよう整えていきたいと思います。

澤本